

朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校

平成30年8月29日(水)

9月号 児童数890名

TEL:048-461-0410



【学校教育目標】 「心豊かに自ら学ぶたくましい人間の育成」

思いやりのある子 自ら学ぶ子 元気な子

【めざす学校像】 「学ぶ喜びと感動のある学校」

【朝霞六小の合い言葉】 ～花あり 歌あり 笑顔あり～



「力を出し切れた」という体験を

校長 木村 直美

六小の子どもたちは終業式での約束どおり、夏休みを“安全に”“元気で”“思い切り楽しんで”みんなそろって2学期を迎えることができました。日頃より子どもたちを見守ってくださっている保護者、地域の皆様のご配慮、ご支援に改めて感謝しております。加えて、「危険なレベルの暑さ」と表現された連日の酷暑に対しては、室外での運動や活動の制限に、ご理解とご協力をいただきました。

さて、記録的な猛暑の中、競泳やバドミントンを筆頭に、アジア大会での日本人選手の活躍が連日報道されました。アスリートたちのものの考え方や生き方に共感したり、感動したりしたことでしょう。努力を重ねてきたからこそその自信、そして、その自信を確信に変えて臨む試合やレース、負けても勝っても悔いのないその一瞬を手にすることができたか。その一瞬のために惜しみなく力を出し切れたか。チームとしていかに心一つにして全員で臨んだかなどを目の当たりにしました。

また、炎天下の下、夏の甲子園大会での秋田県代表の躍進が大きな話題となりました。金足農業高校は、公立の農業高校で、全員が地元出身、3年生9人で、決勝までメンバーを変えず、ひたむきに戦い抜きました。13年連続で、秋田県勢が1回戦で敗退したことを受け、平成23年から県教育委員会が「強化プロジェクト」を立ち上げ、予算を投入し、選手層の底上げに取り組んだそうです。今回の快進撃に、航空会社が秋田から大阪への臨時便を運航し、その飛行機は、応援に向かった人で満席となったということです。地元紙の秋田魁新報社は同校準優勝の号外を3万部も発行したと伝えられました。地元はもちろん、全国的に感動を呼んだのは、全力プレーや、全身で歌う校歌、チーム全体から感じさせる固い絆、連帯感、支えてくれる人達への感謝の言葉などでしょう。

どの競技でも言えますが、練習を重ね、その日のために努力を積み上げて万全に準備したとしても、その一瞬に誰もが「力を出し切る」ことができるとは限りません。だからこそ、努力を重ねて、自分の中に自信を積み上げ、来るべき時に、全力で臨み、力をすべて出し切るという経験を、子どもの頃からさせたいものです。努力不足だからできなくても仕方ない、という発想は逃げにつながります。あんなに努力したのにほとんど力を発揮できなかったという思いは、まさに不完全燃焼だと言えるでしょう。いきなり成功するはずはなく、不完全燃焼や失敗、後悔を体験し、そこから学び、成功に結び付けていくことができるかどうかにかかっています。子どもたち同士で話し合い、困難を乗り越え、課題を解決していくことも貴重な体験です。子どもの周囲にいる大人が、どのように見守り、励ましたり支えになったりできるかがとても大切です。子どもが「達成感」「成就感」を体験することは、その後の人生を生きていく大きな力になっていきます。

今日から始まる、この2学期は、学年それぞれのよさを発揮し、みんなで力を合わせて、設定した目標を達成できるように、努力してほしいと思います。子どもたち一人一人にとって、実り多い2学期となるよう教職員一同努力してまいります。引き続き、本校の教育活動にご理解とご支援をいただきますよう、お願いいたします。